

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 健康科学部 人間コミュニケーション学科

教授 松崎 昇

1. 教育の責務

1) 本学は、保健・福祉系の四年制総合大学として 20 年間ほどの歴史を有する。

うち教養系科目群（「総合基礎科目領域」）は、専門系科目群（「専門科目領域」）の基盤をなす。

すなわち、単なる職業人ではなく、広い視野と深い見識をもって国家社会に積極的に貢献する人間を育成すべく、私達教養系教員は、日夜職務に邁進するのだからなければならない。意欲的に言えば、本学においては、この教養系科目群こそが、専門学校とは異なる四年制大学としての中核部分をなすわけである。教養系教員の職責は重い。

2) 私は教養系教員として全学の教養系諸科目を担当している（ほかに、23 年度までは福祉心理学科（人間コミュニケーション学科）の福祉系専門科目も複数担当していた）。うち、直近 2 年間の科目担当状況は以下の通りである。

3) 23 年度担当科目

科目名	学年・時期	必選（学部学科・単複）	受講者数
経済と経営	1、2 年・後期	選択	33 名
社会学と社会システム （社会理論と社会システム）	1 年・後期 （1、2 年・後期）	福心必修 他選択	47 名
現代社会と倫理	1、2 年・前期	選択	19 名
宗教学	1、2 年・後期	選択	5 名
人間学	1、2 年・前期	選択 Omnibus	4 名
異文化比較論	1、2 年・前期	選択 Omnibus	56 名
経済と経営	2 年・前期	看護・選択	2 名
生命倫理	1 年・後期	看護・選択	21 名

4) 24 年度担当科目

科目名	学年・時期	必選（学部学科・単複）	受講者数
経済と経営	1、2 年・後期	選択	6 名
現代社会と倫理	1、2 年・前期	選択	17 名
宗教学	1、2 年・後期	選択	6 名
人間学	1、2 年・前期	選択 Omnibus	15 名
異文化比較論	1、2 年・前期	選択 Omnibus	43 名
生命学	1、2 年・後期	選択 Omnibus	23 名
経済と経営	2 年・前期	看護・選択	19 名

生命倫理	1 年・後期	看護・選択	4 名
------	--------	-------	-----

5) 授業外活動

直近 2 年間、授業の他に、以下のような活動を行った。

1} 23 年度 富士河口湖高校連携授業「健康と科学」(全 23 回：うち 3 回分担当)

第 21 回 「健康と死亡」 23.12.21

第 22 回 「健康に関する東西の見方」 24.01.11

第 23 回 「みんなで議論してみよう」 24.01.18

これは地元連携高校への出張講義活動である。

理学・作業・福祉・看護計 4 名の教員 (4×5=20 回) のあとを受け、共通科目長として、締めめの 3 回分を受け持った。

うち初めの 2 回は、社会・人文的な視座から、健康問題に鋭く切り込むよう心掛けた。受講生は、これまでと異なる意外な切り口に驚いたようで、反応は上々だった。最後の 3 回目、前半は生命倫理を教授、後半には、事前に受講生から募っておいた諸論題につき、グループで、および全員で、議論してもらった。徐々に皆喋り出し、活発な議論となった。

2. 教育の理念

1) 大学の教育理念

本学は、「豊かな人間力」「専門的な知識・技術力」「開かれた共創力」という 3 点を建学の精神としている。この精神のもと、大学の 3 ポリシー、更にそれを具現した各学科の 3 ポリシーがある。うち核となる大学のディプロマポリシーは、高い倫理性、幅広い教養、QOL の理解、協働コミュニケーション力、社会人基礎力、自己研鑽力、等を旨とする。

2) 私の教育理念

以上を実現すべく、私が授業で特に留意しているのは、次の 2 点である。

1} [体系性・論理性] の徹底

私が授業を展開する際に最も心掛けていることは、体系性・論理性である。

受講生を指導する際にも、この点の指導に最も力を入れている。なぜか、学問の真髄はこの点にあるからである。

2} [自ら調べ考え発出できる人物] の育成

では受講生をどのような人物に育て上げるか、それがこれである。

①能動性

受け身ではなく、能動的に言動できる人間になること。

具体的には、以下のように「調考発」の訓練をしている。

②インプット面 [調（調べる：読む・聞く）]

調べる際には、溢れ返る情報塊のなかで、何が信用できるものであるか常に反省するとともに、必ず複数のソースに当たるよう指導している。

および的確迅速に文書を読み議論を聞けるよう、読む力・聞く力の brush up にも努めている。

③思考過程面 [考（考える）]

調べて終わりではなく、自ら考えることができる人間になること。

これをやらないと、浅はかな受け売りで終始してしまう。

授業では常に「調考感」をセットで意識させている。

ここに感とは、一方で身近に感じ取ることであるとともに、他方でかりに考察まで至らないとしてもせめてさまざまに感じ取ること、そしてそれを明晰に言語化して発出すること、である。

いずれにせよこの（記憶ではなく）思考の過程こそが学修の中核であることを、徹底的に指導している。

「大学以降・仕事・生活」にあっては、無限の、正解のない諸課題に直面する。私達は逐一、それらをとりあえず打開していかなければならない。課題解決力、それを各授業等で、繰り返し養うべきである。

④アウトプット面 [発（書く・喋る：発表・対論・討論）]

自分（達）の考えは、外に出さなければ、他者・社会にはわからない。そこで、その外への出し方も、可能な限り訓練している。書くこと・喋ること、の二系統である。

すなわち一方で、毎週の事後課題や期末 Report で、体系的論理的な記述を常に求めており、また他方で、授業の終盤数回で、受講生に徹底的に喋る機会を課している（これについては次項の 3）を参照されたい）。

3. 教育の方法

1) 講義

1} Power Point (PP) を用い、先述のように体系的論理的な展開を心掛けている。

2} PP は、毎回事前に、科目 Team の「一般」の「ファイル」の「クラスの資料」内に掲示し、受講生に事前の一読を促している。

3} 毎回の授業内では、一塊の説明が終わる都度、質疑応答の時間を取るよう心掛けている。90 分間の授業で、3 回程、1 回につき 2～3 人程、であろうか。

具体的には、教室内であればランダムに指し、遠隔であればランダムに番号名前で振る。また共に、自由発言の間を設け、質問感想等を自在に喋ってもらうようにしている。

2) 毎回課題

授業内容の定着や応用力育成を狙い、換言すれば積極的な調考感の姿勢を身に付けて

もらうべく、毎回＝毎週、課題を出している。

Teams を用いた「課題配信・解答回答返信」となっている。

設問は全 4 問、うち 3 問が実質の設問、残る 1 問は当日の授業や課題に関する質問感想等の自由記述である。

受講生からは、「他の科目ではこんなヘビーな課題はやっていない」「取り組むのがたいへん」等の反応が多いが、毎週 3 問、自分から具体的に調考しなければならないので、結果、否応なく調考力が身に付いた、内容理解にとっても役立った、といった肯定的反応に落ち着く。

3) Active Learning (AL)

各授業では、可能な限り、AL を行うようにしている。

その Style は本来三態あり、原則として終盤の 3 回を当ててるのだが、近年は Debate を外し二態とする場合が多い。

(下記は 15 回授業の場合。少人数の場合、グループは各人に換わる)。

1} AL 事前説明

AL の趣旨、および具体的なやり方の説明。

うち特に GPP (グループパワーポイント) の作り方の事前説明では、ものの考え方・書き方の指導もしっかりと行っている。すなわち、PP や Report の記述順は「1 現状、2 問題点、3 原因、4 従来の対策、5 私 (達) の提案」を原則とすることを、明確に指導している。

なお、本来は、ゆっくりじっくりと AL の事前説明を行うべきなのだが、びっしり授業をしていて回数・時間が取れない場合、Team に文書群を up し、受講生にはそれらを見て理解してもらうことになる。この場合、この部分は反転授業となる。

2} 第 13 回 GPP 発表

受講生は事前に、グループをつくり、グループで 1 本、PP を作成する。グループは 6 つ (以内)。論題は指示領野のなかで自由。

当日はグループ毎に、順次「発表・質疑応答」を行う。

採点は Floor (受講生各人) と先生が別々に行う。各人は、与えられたルーブリックに従い、自分達のグループを除く 5 グループに対し、採点する。

質問をすると、1 回につき、質問者が属するグループの全員が 2 点貰える。

3} 第 14 回 GD (グループディベート)

同じグループを使い、次に Debate (対論) を行う。論題は 3 つ、指示する場合が多い。

Y/N の両側に分かれ、「立論・対論・結論」の三過程で行う (通例の過程を変更)。

うち対論部分に時間を長くとっている、ここで両 G が自由に激論することになる。

対論の終盤には、Floor からの質問も募る (1 回質問すると質問者が属するグループの全員が 2 点貰える)。

採点は Floor (受講生各人) と先生が別々に行う。各人は、与えられたルーブリックに

従い、自分達のグループが属する組を除く2組に対し、勝ち負けを判定する。

ただし近年は、この Debate 回を省略するが多い。内容をしっかりと理解していないと対論は難しいこと、対決姿勢が昂じると終了後相手陣営メンバーに対し悪感情を持ってしまうこと、などによる。

この Debate 回を省略する場合、授業回を増やしたり、他の Event を行ったりすることになる。

4} 第15回 TD (トータルディスカッション)

最後に、(グループは解散し) 全員で、Discussion (討論) を行う。

論題は、事前に各人から3つ募ったものを、加重集計し、希望が多かった順に6題採択、事前に公表する(ほかに先生が1つ追加する)。

1回しっかり喋ると5点得る。

受講者数が多い場合には、司会2人を立てる(司会点を与える)。少ない場合には先生が司会を行う。

※} ほかに、「社会学と社会システム(社会理論と社会システム)」では、国試科目なので、1年生ではあるが、過去3か年の国試問題を、第14回に解いてもらった(解答後に採点解説)。

4) 期末考査

全文記述型の Report を課している。

課題3問、ほかに授業の感想等を自在に記してもらっている。

ただし近年は生成 AI を用いることが可能となったので、これへの対処として、AL 回における、その場での臨機応変な発言を、より重視するようにしている。

今後は Oral Examination (口頭試問) を導入しようかとも考えている。

4. 教育の成果

授業評価アンケートにより以下記載する。

例として、24年度担当科目より、15回科目から「経済と経営」、8回科目から「宗教学」を取り上げる。

1) 「経済と経営」(総合評価4.5)

1} 成果

PP スライドの進行、授業外での勉学、等において評価が高かったようである。

①授業では、体系的論理的な教授・スライド進行を心掛けている。

②課題では、積極的に調考感する姿勢を身に付けてもらえるよう努めるとともに、各人が提出した解答回答文に対し丁寧なコメント・返却を心掛けている。

2} 反省

他科目との関連、期待、において評価が今一つだったようである。

①本科目は単体であり、他科目との関連性提示はなかなか難しい。

ただし社会・人文系を広く論じ、受講生の視野を断然拡張・深化するよう努めている。

- ②本学学生の大部分は、元々経済・社会系に苦手意識を持っているようである。今後は、PPの分量を削減し身近なところから経済経営現象を扱いたい。早速、今年度（25年度）、資産運用の回を設けた。

また看護では、24年度から、青年協力隊紹介の回を設け、外国で活躍する看護師達の活躍を、映像にのせて伝えている。

2)「宗教学」（総合評価 4.2)

1} 成果

授業レベル、課題取組、等において評価が高かったようである。

- ①回数（全8回）の許す限りで本格的な教授を行っているが、受講生は良くついて来てくれたのだろう、ありがたいことである。
- ②また事後の課題で、受講生は毎回良く調考してくれたものと思われる。

2} 反省

スライドの進行、シラバス活用、において評価が今一つだったようである。

- ①まずは正味5回の講義回数内に、膨大な質量を詰め込んでいるので、どうしてもスピードが速い、といった事態が生じてしまうものと思われる。できるだけ枚数を減らすしかないが、あれもこれも大事なので、削減はなかなか難しい。本科目の15回化を願うのみである。
- ②シラバス説明は第1回のみ、その後は毎回の目次がシラバス進行を意味すると第1回到説明してあるのだが、受講生にはこれがなかなか伝わりにくいのだろうか。この設問自体が不要であると思う。

3) 改善点

担当諸科目全体を通じ、今後、以下の点に努めたい。

- 1} 内容を厳選し、とにかく授業・課題の分量を減らしたい。25年度にさっそく実行している。
- 2} 授業では、できた余裕の時間を用い、一方で質疑応答タイムを増やし定着等を確認していくとともに、他方でちょっとしたグループワークの時間も作り能動的な姿勢を引き出すようにしたい。
- 課題では、しっかりと「調考記」することを繰り返し周知している。とともに、提出された全員の解答回答文をすべて読み、コメントを丁寧に記入したうえで返却している。

5. 今後の目標

教養科目群は、一方で専門科目群の基礎をなすとともに、他方では国民・社会人として高度の汎用的な「人間力・現代力・打開力」を身に付けてもらうことを狙いとする。かかる観点から、以下の諸目標を掲げる。

1) 短期目標

授業・事後課題でさまざまな刺激を与えることを通じ、受講生に、社会・人文系に対する能動的な「調考感発」活動を展開できるよう、意を尽くしたい。

2) 中長期目標

立派な国民・社会人を世に陸続と送り出せるよう、社会・人文系科目担当者として微力を尽くしたい。

6. 資料 すべて 24 年度分 (別添ファイル)

資料 1. Syllabus 例	「経済と経営」 Syllabus
資料 2. 授業資料例	「宗教学」 第 2 回 PP
資料 3. 毎週課題例	「現代社会と倫理」 第 1 回 課題
資料 4. Active Learning 資料例	「生命倫理」(看護) 第 13,14 回用 PP のやり方
資料 5. 期末 Report 課題例	「経済と経営」(看護) 期末 Report 課題
資料 6. 授業評価アンケート例	「経済と経営」 授業評価アンケート 結果

【2024 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

科目名		ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
経済と経営			選択	2	1.2	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
松崎 昇		B317	noboru.matsuzaki		火曜日 12：20～14：30	
授業の目的・概要	1. 問い NISA って知ってる？ ブラック企業ってどうやって見分けるの？ 社会人になるとどんな税金をどれだけ払うの？・・・					
	2. 目的 本科目は、学生が現代日本における経済経営的諸問題に積極的に関心を持ち、自分なりに調査・考察・発表・議論できるようになることを目的とする。 企業等に就職する人はもちろんのこと、療法士・福祉士を目指すみなさんにとっても、経済経営的な感覚・社会常識・時事等は、就活時、出世時、また社会生活をおくる上でも、不可欠となる。社会系の苦手な人にこそ、ぜひ受講を勧める。					
授 業 形 式 ・ 方 法	3. 概要 経済経営の基本、および両者の現代日本の諸展開について学修する。 終盤の第 13～15 回には、Active Learning を行う。 【①Power Point 発表・質疑応答、②Debate、③Discussion】という三形態を予定している。					
	☒ 対面授業 ☒ 講義 ☐ 演習 ☒ PBL ☒ 反転授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ 遠隔授業(双方向型) ☐ 実習 ☐ 実技 ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 遠隔授業(自主学习) ☐ その他（					

【2024 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

15	AL3：受講生による Discussion、まとめ。	討論・講義	指定課題に取り組む。	4
試	期末 Report.			

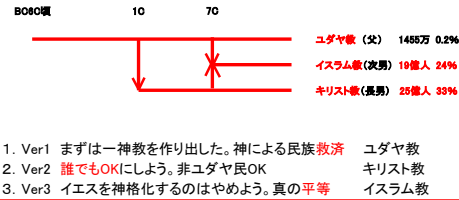
達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	30	35	0	35	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	10	10
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	0	15	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	10	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	15	15
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	10	20
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	期末 Report を評価する。 着眼点、ならびに調査・考察の質量、文章作成力等に着目する。			Comment を付け、返送する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	【①Power Point 作成・発表・質疑応答、②Debate、③Discussion】 を評価する。 着眼点、ならびに調査・考察・発表・発言の質量等に着目する。			Comment を付け、結果を公表する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回提出する事後課題を評価する。 調査・考察の質量等に着目する。			Comment を付け、返送する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員		なし。					
教員の実務経験		なし。					
実践的授業の内容		なし。					
そ の 他		1. 授業は教室対面方式であるが、課題は Teams を用いて提示・回収・返却する予定である。 念のため通信容量無制限の Wi-Fi 環境の確保を勧める。 2. 本科目は教室対面式の授業を行うので、受講生は大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合には授業への参加を認めない。 3. 授業進捗等、また今後の新型コロナウイルス感染症の状況等によっては、シラバスの変更もありうる。 その場合には事前に告知する。					

宗教学

2. 一神教



1-1. 一神教 系図



1-3. 一神教 特性等



- 経緯
 - 強大なもの・最強のものを求める。→ 論理的に純化・抽象の極限
 - [多神→(絞り込み・階層分化(最高神))→二神(善と悪)→一神]
(ヤハウェイ(YHWH)とアッラーは同一神)
 - 牧畜民の発想 人対家畜 → 神対人間 [主と奴]
- 特性 唯一絶対性 (独占=独裁=独善=一神)
 - 絶対と相対 神のみが絶対、人の世は所詮相対の世界。
 - 他神・他教徒の存在を許さない。排撃性
 - [各教徒内・三教徒間・他教徒間]で抗争
- 形式 神との契約 (民族→個々人)

疑問① 契約は水平関係でのみ可能なのに、なぜ神と契約を結べるのか？
- 呼称 アブラハムの宗教・啓典宗教(啓典の民)

目次

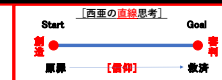
- 一神教
- ユダヤ教
- キリスト教
- イスラム教
- まとめ

1-2. 西亜の自然等

- 一神教はすべて西亜産。
- 概して乾燥地帯、荒地、遊牧民
- ユダヤ教
上流域→ウール→カナン→エジプト
→シナイ→カナン(イスラエル)
- キリスト教 ナザレー→エルサレム
- イスラム教
メッカ→メディナ→メッカ



1-4. 一神教 教義



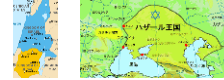
- 教義 [創造(原罪)～審判(救済)]
 - 神がこの世を創造した。万物は被造物である。
 - 人類は原罪を負っている。
 - この世の終わりに、神が審判を行う。
メシア(H語:油を注がれた人→救世主:キリスト(G語))が到来し、裁く。
 - 神を信じ行動(教えを守る等)していれば、救済される。[天国・地獄]
 - ただしキリスト教は、のち、煉獄を作った。
「ゲルマン人を洗脳する際、非キリスト教徒である祖先を地獄に落とさぬよう、天国と地獄の中間形態を付加(偽造)した。」
 - 現在キリスト教国が死刑制度を廃止できる根源的な理由は～
神が最後に絶対的に人を裁くから。人の裁きは仮のものにすぎない。

1-5. 一神教 比較等

一神教の完成形態としてのイスラム教			
一神教	信仰範囲	信仰対象	
ユダヤ教	民族固有【 猶太 】	神	
キリスト教	個人・世界【 普遍 】	イエスも神【三位一体】 【猶太】	
イスラム教	個人・世界【 普遍 】	神	

6. **神の前の平等** **イスラム教** 神の下の奴隷
7. 神学 膨大な議論を積み重ねた。
8. 布教 キリスト教・イスラム教
この神・この教えを(ユダヤの民以外にも)広く広めよう。
9. 貧民救済(慈善事業) キリ・イス 施す人自身の救済につながる
個人に対する布教であるため、虐げられた人・貧しい人に着目した。
この世は悲惨だが、**あの世**(≠死後)で救われる。
10. 安息日 土(金タ～土タ:天地創造後の何もしない日)
キ 主の日 日(イエス復活の日)
イ 集団礼拝日 金(ムハンマドがメッカを脱出し帰還した日)

2-1. ユダヤ人の歴史



0. **アダム…ノア**(契約)…アブラム(改名)
1. **アブラハム** チイサクがユダヤ人の祖(イサクの異母兄弟がアラブ人の祖)
2. **モーセ** **出エジプト**(エジプト時代は①**奴隷**) 契約 BC1200年頃
3. BC11c イスラエル国 [サウル、ダビデ、**ソロモン**] 神殿建設(BC1000年頃)
4. BC922年 分裂 BC721年、②**北滅亡**(アッシリア:失われた10支族)
5. BC586 ③**南滅亡**(新バビロニア:-538年 バビロン捕囚) ペルシャが解放
6. BC333-BC143年 アレクサンドロス/プトレマイオス朝/セレウコス朝の支配
7. BC63年- ④**ローマの支配** 異民族混雑
8. 66-70-73年、132-135年 ユダヤ人の反乱
9. ディアスポラ(⑤**離散**) [西アジア～アフリカ・イベリア半島・**東欧**]に散った
☆ハザール(カザール)国 7-13c 8-9cに改宗

2-3. 『タナハ』 39冊

1. **モーセ五書**(律法:トーラー) ～2c
1) **【創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記】**
2) 内容 天地創造、エデンの園、カイン、系図、洪水、バベルの塔、アブラハム、ソドムの滅亡、ヤコブ(イスラエル)
エジプト脱出、シナイ山での十戒…
3) 十戒 唯一神、偶像禁止、名唱禁止、安息日(土)、孝行、殺すな、淫するな、盗むな、隣人[に偽証するな、の財を欲するな]
2. 預言者 ヨシュア記、イザヤ書、等
3. 諸書 詩篇、ルツ記、ダニエル書、等

◎ここまでで 1

ここで
今日の出席をとります

1. ここまでで重要なのは、**【一神教の系譜、論理】**等です。
2. ここまで、どうか？
感想等でもいいよ。
3. つと、ここで**出席**をとっておきます。

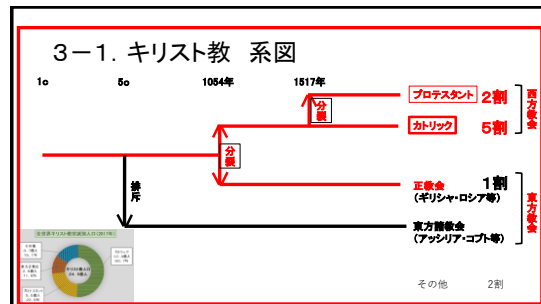
2-2. ユダヤ教



1. **逆転の発想** 弱小民族 苦難の歴史
①エジプトで奴隷とされ、②アッシリアによって北が滅ぼされ、
③新バビロニアによって南も滅ぼされ、捕虜とされる。なぜこのような目に遭うのか？
1) 通例～神(々)の力が弱いから、こんな酷い目にあったんだ→棄教・勝神に棄換
2) ユダヤ人～**苦難を味わうのは、信心が足りなかったからだ。→信仰を強固にする**
2. 成立 BC12c～BC5c～AD2c 開祖はいない(自然宗教の面)・預言者達
3. **選民思想** 神はユダヤの民を選び、命を下された。民族の救済:独善
4. 継承 [天地創造・最後の審判・天国地獄]等の概念を、**ソロアスター教**から受け継ぐ。
5. 典拠 **『タナハ』**(ユダヤ教徒の書:ヘブライ語(一部アラム語):旧約聖書)
『タルムード』(信仰生活書)、『ミシュナ』(注釈書)、『ゲマラ』(解説書)
6. 施設 シナゴーグ
7. 教師(宗教指導者) ラビ
8. 割礼 もともとこのあたりの地域では、やっている。

◎ここまでで 2

1. この部分で重要なのは、**【ユダヤ教の論理】**です。
2. ここまで、質問等、どうか？
感想等でもいいよ。



- ### 3-3. 『キリスト教徒の書』(新約聖書) 1~4c
- 福音書+使徒言行録+書簡・文書
 - 福音 (Gospel, Evangel) 1c
 - 福音 (Good News) ①復活したよ! ②神の国は近い、悔い改めよ!
 - 福音書 四書 イエスの言行録
 - マルコ(最古)
 - マタイ(弟子: アブラハム以降の系図: ダビデ王の子孫)
 - ルカ(トルコ人医師)
 - ヨハネ(弟子: 神学的)
 - 内容 ヨセフとマリヤ、ヨハネによる洗礼、伝道、最後の晩餐、死、復活
奇跡~水を葡萄酒に・大漁・5000人食・嵐静め・湖上歩き・変容・
病癒治し・悪霊退治・罪を許す・死者を生き返らせる

- ### 3-5. 五教区 4c
-
- 4c頃、ローマの管区に準じて、教区ができた。
 - エルサレム(パレスチナ) ヤコブ 発祥地・イエスの伝道処刑地 小規模
 - アンティオキア(シリア) バウロ(回心) イエス死後の伝道の中心地
 - アレクサンドリア(エジプト) マルコ 理論(アタナシウス) 5cコプト教会
 - ローマ(イタリア) ペテロ ローマ帝国の首都 唯一ラテン語を用いた。
 - コンスタンティノポリス(330年に新首都として建設、東ローマの首都)
 - のち、4カ所はイスラム教徒の手に落ちる。残ったローマが教皇位を占称

- ### 3-2. キリスト教 [ヨハネーイエス〜パウロ]
- 2001年 BBC作成
-
- 状況 [サドカイ派(神殿)、パリサイ派(律法)、エッセネ派(信仰・共同生活)]
 - 当人 ナザレのイエス BC4-AD30年頃(33歳) アダム後60代 ヨハネの弟子
3年余布教、政治犯として処刑 3日後に復活、40日間滞在し昇天
 - 趣旨 ユダヤ教内の宗教改革運動 [ユダヤ教イエス派] → のち独立
律法よりも信仰 政教分離 貧・異が集う ユダヤ教主流派が迫害
 - 成立 1~2c パウロらの伝道により、異教徒が改宗、普及。 → 確立は5c
 - 核心 イエスは救世主(キリスト)である。神=イエスを信じよ。
 - 教義 ①三位一体論([父と子と聖霊]は同一である)
②性一人格論(イエスは神の子であるとともに人の子である) 媒介
 - 典拠 『キリスト教徒の書』(旧約聖書+新約聖書: キリヤン語)
 - 疑問② イエスは自らの死をもって人類の罪を贖ったと言う(贖罪)。
ならばなぜ、その後も原罪や最後の審判を脱くのか? 一件落着では?

- ### 3-4. キリスト教史 古代 1-4c
- 1~3c 成立・普及
 - 当初、ユダヤ教イエス派として活動。
守旧派ペテロ対革新派パウロ(割礼・律法遵守必要なし: しかしまだユダヤ教意識)
 - ユダヤ人の反乱失敗(70年)などを契機に、次第にキリスト教が分離独立。
 - キリスト教徒は、各地に教会を建て活動。
しかし各地で[ユダヤ教主流派・各地の多神教・皇帝崇拝]と衝突。
各地域民には[新奇な信仰を強硬に主張する奇天烈な奴等]として忌み嫌われた。
 - ローマの奴隷に広まった。
 - 4c 公認・国教化 政治的必要性(帝国維持のため)
 - 313年 公認 (ミラノ勅令) コンスタンティヌス帝
 - 380年 国教 (三帝勅令) テオドシウス帝
 - 392年 他教・異端の禁止 //
 - 395年 ローマ帝国東西分裂 (キリスト教を公認等した意味がなかった...)

- ### 3-6. 公会議 4c~
- 問 イエスは神か人か?
×人面を重視 アリウス
○神々人として不可分 アタナシウス
×別々面重視 ネストリウス
×神面を重視 単性論者
- 神
人
- 趣旨 教義の確定を目途として、4c~20cに21回行われた。異端排斥
特に、初期(4-5c)は、イエスの位置付けで激しく紛糾した。聖霊・マリヤ
 - 主な公会議
 - 325年 ニケーア アリウス派排斥 ×人性 北逃
 - 381年 コンスタンティノポリス 三位一体論(アタナシウス派)
 - 431年 エフェソス ネストリウス派排斥 ×二人格 東逃
 - 451年 カルケドン 単性論(コプト派)排斥 ×神性 南逃
 - [三位一体論・性一人格論]で確定
 - その後も、聖像破壊論排撃、カタリ派排除、ウイクリフ・フス排撃、等

3-7. 外部性の取り込み

1. 受容 信者を取り込むため、**異教の祭りや土地の風習等を取り入れていった。**
 - 1) クリスマス ←ミトラ教の冬至祭 ツリー、サンタクロース
 - 2) イースター ←ゲルマン民族の春の祭り
 - 3) バレンタイン ←ローマ教の女神ユノの祝日
 - 4) 6世紀 教会暦を確定
☆近年では商用も。
2. 偶像化 2c～ **絵画・像** イエス・マリア(←各地の宗教における女神)
 - 1) 庶民に宣教する際、目に見えた方が、**わかりやすい。文盲**
 - 2) 787年 第二ニケーア公会議にて、**偶像を容認。**
 - 3) ルネサンス期 絵画全盛
 - 4) のちプロテスタントは否定

3-9. 修道院・修道会

1. 趣旨 **信仰を厳しく追求** 禁欲 [祈り・働け～托鉢]
2. 前史 荒野・洞窟等で、1人～集団で、修行する。
3. 教会後 教会の腐敗に抗し、集団で、信仰生活をおくる。断崖
1) 西方 **ベネディクト(6c)**、クリュニー(10c)、シトー(12c:農業)、
ドミニコ(13c)、フランシスコ(13c)
イエズス会(16c)、ラサール(17c)、サレジオ(19c)
ほかに騎士団(墳墓・ラザロ・ヨハネ・templar・ドイツ)
2) 東方 アトス山(Gr)、メテオラ(Gr)、アレクサンドル・ネフスキー(Ru)...



メテオラ

3-11. プロテスタント



1. 前史 破門・火刑 14cウィクリフ(遺体火刑)、15cフス、サヴォナローラ
 2. 1517年 **ルターの宗教改革** [免罪符・教会組織墮落・偶像]を批判
 3. 趣旨 **信仰・『聖書』を重視した。** 神対私 平等
 4. 同様 ツヴィングリ(戦死)、カルヴァン
 5. 15-17c 宗教戦争 フス・シュマルカルデン・ユグノー・オランダ独立・
三十年(1618～48年:ウェストファリア条約:信教の自由:死者800万人)
- ☆英国教会 1534年にヘンリー8世が、**離婚問題**に絡み**政治的**に作出。
内実はカトリック似。聖公会

3-8. キリスト教史 中世

1. 4-14c **ヨーロッパ全土に徐々に広まった。**ゲルマン人・スラブ人
 - 1) 単純明快(信じれば救われる)・高度文化(グレコ・ローマン)の一環
 - 2) **結局、ヨーロッパは、外来新興宗教に席巻されちゃったんだね。**メメント・モリ
 2. 1054年 **東西分裂**(ローマのカトリック教会とコンスタンティノープルの正教会)
 3. 1096-1270年 **十字軍**(8回) →欧内ユダヤ教徒も迫害(Iberia等:Polandへ)
 4. 1198-1216年 **イノケンティウス3世(教皇権絶頂期:皇帝・国王を破門)**
 5. 1309-1377年 **アヴィニョン捕囚**(逆転:フランス王が教皇庁を移転させる)
 6. 1378-1417年 **大シスマ**(分裂:教皇併立・鼎立)
- ◎ 西洋思想=[**ヘレニズム×ヘブライズム**](ギリシャ哲学×キリスト教)
☆ 1582年 **グレゴリオ暦**(グレゴリウス13世:現在に至る ←BC45年ユリウス暦)

3-10. 排撃の諸相

0. 趣旨 **異端・異教を排撃する。**政治絡み・財産を巻き上げる
1. 異端審問 キリスト教内の**異端**を取り締まる。
 - 1) 中世 11-14c カタリ派処刑
 - 2) スペイン 15-19c 改宗者(ユダヤ教・イスラム教)・プロテスタント処刑
 - 3) ローマ 16-20c **ブルーノ**(火刑)・ガリレイ(禁書)
禁書目録 **デカルト・コペルニクス・カント・サルトル**...4000冊
2. 魔女狩り 15-18c **異教徒**を焼き殺す。男も豚も



3-12. 位階制・万人祭司制

1. カトリック 位階制
[**教皇**—枢機卿—大司教—司教—司祭(**神父**)—助祭]—信徒
2. プロテスタント 万人祭司制
[**牧師**]—信徒
3. 結婚・女性
C～独身・男性に限る。
P～結婚・女性OK

3-13. 正教会



1. 教義等

- 0) **ローマ(西側世界)とコンスタンティノープル(東側世界)で諸々の差異。**
 1) 分裂の主因～聖霊は、神から出るか(正)、神と子から出るか(カト)。
 2) 内実 両者はほとんど同じ。ただし典礼・組織等は異なる。

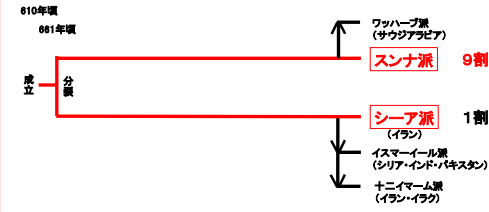
2. 四総主教庁

コンスタンティノープル、アレクサンドリア、アンティオキア、エルサレム

3. 独立教会(大主教)

5cグルジア、10cブルガリア、セルビア、16cロシア、20cルーマニア…

4-1. イスラム教 系図



4-3. イスラム教2

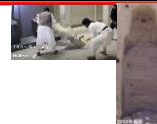
4. 典拠 『クルアーン』(イスラム教徒の書:アラビア語) **神の言葉** +旧新
 『ハディース』(ムハンマドの言行録)
 『シャリーア』(イスラム法:規範・生活指針)
 5. 施設 モスク (学校はマドラサ)
 6. 教師(宗教指導者) イマーム(導師)、ウラマー(学者)
 7. 9c スーフィズム(神秘主義)
 内面化・神への信愛・修行・神との合一体験

経(ユ・イ禁止) 人と食が融合する/乳も出さない、移動が短い

◎ここまでで 3

1. この部分で重要なのは、**[キリスト教の系図、三位一体説]**等です。
 2. ここまで、質問等、どうか？
 感想等でもいいよ。

4-2. イスラム教1



1. 7c ムハンマド(570頃-632年)
 1) 最後にして最大の預言者 25人 **人である。**
 2) ジブリールから神の言葉を託された。
 2. 教義 **六信五行**(スンナ派の場合)
 1) 六信 神・天使・啓典・預言者・来世・天命
 2) 五行 信仰告白・礼拝(1日5回)・喜捨(税)・断食(9月の日中)・巡礼
 3. 特徴
 1) **[砂漠・都市・商人]**の宗教
 2) **神の前の平等** 神対私 (部族単位で入信する事例が多いが)
 3) **偶像崇拝の禁止** 一偶像破壊

4-4. イスラム教の歴史

1. 610年頃-622-630-632年 **ムハンマド**(メッカ→ヤスリブ(メディナ)→メッカ)
アラビア半島をほぼ支配
 2. 632-661年 **正統カリフ時代** 全4代(選挙:うち3人が暗殺される)
領土急拡大
 第4代アリー(従兄弟、娘と結婚)を継ぐ人達が、シーア派を作った。血縁
 3. 661-750年 **ウマイヤ朝(アラブ帝国)**
 ムアウィア 全14代 首都ダマスカス **領土拡大**
 4. 750-945-1258年 **アッバース朝(イスラム帝国・サラセン帝国)** **黄金時代**
 アル=アッバース 全37代 首都クーファ(766年~**バグダード**)
 ☆ 756-1031年 後ウマイヤ朝(イベリア) 全24代

4ー5. Islamの特徴

Baghdad

大規模都市となる

アッバース朝の首都（西暦750年以降に建設し、800年代前半に勢力の中心として繁栄する）

1. 拡大

1) 当初は、**苛烈な征服戦争**を行う。男が激減

2) のち**寛容**となる（人頭税を払えば異教徒のままでよい）。

3) その後、**商業ルート**で広がる。→**インドネシア・フィリピン**まで

2. 繁栄

アッバース朝の首都**バグダード**（150万人）は、**高い学術・文化水準**を**持ち栄えた**。**ギリシャ哲学を翻訳保存** 11cアヴィケンナ（イブン＝シーナ）**アラビアン・ナイト**（アラジン・アリババ・シンドバッド）

3. 意味

「社会・生活」全般を強烈に縛る。**西亜はこれで止まった！**
1400年前の社会文化宗教状況を瞬間冷凍保存したようなもの。

◎ まとめ 三教の異同

ユダヤ教

YHWH

ユダヤの民

神
ユダヤ民族（選民）
行為（律法を守る）
（奴隷・捕虜で逆転の発想）
初発 中途半端

キリスト教

YHWH

イエス

教会組織

信徒達

〔神・イエス・聖霊〕
個人→世界
信仰
（奴隷に普及・部族で改宗）
とっつきやすい 中途半端

イスラム教

アッラー

信徒達

神
個人→世界
行為（五行）
（部族で改宗）
単純明快 完成（平等）

4ー6. ムスリムのVeil (Dress Code)

1. 直因 対女性 神が命じるから。ただし強制ではない。

1) 24-31 信者の女達に言ってやるがいい。視線を低くし、貞潔を守れ。
外に表われるものの外は、美（や飾り）を目立たせてはならない。
それからヴェイルをその胸の上に重ねなさい。自分の夫または父の外は、美（や飾り）を表わしてはならない。

2) 33-59 預言者よ、あなたの妻に、娘達また信者の女達にも、長衣を纏うよう告げなさい。

2. 真因 男女共 砂嵐対策

イスラム世界における女性の服装

ヒジャブ

チャドル

ニカブ

ブルカ

◎今日はこれにて終了

1. この部分で重要なのは、**【イスラム教の系譜、特徴、欠点】**等です。

2. 今日の授業で最も重要だったのは、一神教の系譜や本質等です。

3. 今日の授業、全体としてどうか？

4. では**課題**を楽しんでね。

5. 次回は**【インドの宗教事情】**です、お楽しみに！

6

【現代社会と倫理】 第1回課題 [倫理学]

学籍番号 _____ 名前 _____

みなさん、こんにちわ。これから毎週、簡単な課題が出ます。

1. これを記述し提出すると、毎週、得点を Get できます。
全3問+1自由記述=計4項目、 $3 \times 3 + 1 = 10$ (点) です、楽しく Try しましょう。
2. 当日を入れず、4日後の pm23:59 までに、Teams 上で返信して下さい。
3. 行は、記述量に応じ、適宜動かして下さい。できるだけしっかりと書いて下さい。
4. Comment には、素晴らしさの度合いに応じて、Nice、Great、Excellent がつく場合があります、お楽しみに!(^^)!
5. 受講生仲間と一緒に課題に取り組むのはいいことですが、各々独自に調考記すること。
解答回答文が同一の場合、カンニングとみなし、双方共当該回0点、さらには成績評価Dなどにもなりますのでご注意!

[1. I. Kant の義務論について] 14 頁

カントの定言命法2に関し、他者を手段として悪質に使う行為を1つ取り上げ、論評してみよう。具体例を取り上げること。

なお違法行為は、倫理の対象ではなく、法律の対象なので、取り扱わないこと。

1) 行為:

2) 論評:

[2. J. S. Mill の自由主義の原則について] 18 頁

ミルの自由主義の原則に適合する愚行を1つ取り上げ、論評してみよう。

具体例を取り上げること。

なお違法行為は、倫理の対象ではなく、法律の対象なので、取り扱わないこと。

1) 行為:

2) 論評:

〔3. 日本の道徳について〕 24 頁

アリストテレスの徳論に関連し、日本の道徳を調考感してみよう。

「5－☆ 東洋の道徳 日本「修身」の徳目」で取り上げられている人（39 人）から 1 人を選び、事績を調記するとともに、自分に引き付けて考感してみよう。

1) 人物名・事績：

2) 考感：

〔☆ 自由記述〕（必記）

今回の授業ならびに課題に関し、よくわからなかったこと、質問したいこと、感じたこと、驚いたこと、なるほどと思ったこと、折を見てさらに突っ込んで考えてみたいと思ったこと、など、何でもいいので、書いて下さい。

【生命倫理 第13、14回 PPのやり方】

24.12 ま

I. 趣旨

1. これから3回にわたり、Active Learning (AL)を行います。
 - 1) 第13回 Power Point 発表1 [全体像・産むこと産まれること] 編
 - 2) 第14回 Power Point 発表2 [生きること・死ぬこと] 編
 - 3) 第15回 全体討論 (TD) 本科目の全範囲 論題は後日募集 別途説明
2. うち、まず第13、14回用の説明をします。

II. 課題

1. 生命倫理に関し、現在の論点を1点とりあげ、具体的に調考する。
 - 1) これまで授業で扱った論点でもいいし、授業で触れなかった論点でも OK。
 - 2) 自分で関心を持った点、自分にも何らか係わってくることが好ましいが、論題・取り扱い方等、どうやっても OK。
 - 3) 実地調査・アンケート・インタビュー等を入れると、好感度 up。
2. 例：以下の中領野から1点選び、更に小領野に絞り込み、論題を特定していく。
 - 1) 全～自己決定、IC、EBM、倫理的諸問題・医療上の Trouble、医療 Business
 - 2) 産～中絶、特別養子縁組制度、人工授精・体外受精・代理出産、出生前診断・着床前診断、DB、現代における優生学的発想
 - 3) 生～再生医療、Clone、Enhancement、Bio-Tech、動物（実験利用・Pet）、薬物
 - 4) 死～安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、頭脳移植、自殺
 - 5) 他～WHO の国際保健規則改悪の危険性、社会保障制度・生活保護制度、病院チェーン、製薬・化粧品・医療機器業界、理美容・整骨整体等業界、宗教施設

III. 題名・枚数

1. 題名 自分で独自に付ける。中身を反映したものにする、格好いい題名にする。
2. 枚数 13～16 枚

IV. 書式

以下のようにする。

表紙	題名、番号、名前
目次	すべて数字で指示
中味	目次と対応させ数字で指示 全頁に見出しを付ける 体系的論理的に展開する
出典	使ったものを2つ以上書く。題名と出所（使わなければ、なしでよい）

V. 中味

標準的には、以下のようにする。ただし別様も可。

1. **動機** 自分はなぜこの問題を扱うか、[題名と自分] の関係を付ける。
2. **現状** まずは PP で扱う領野・論点に関し、現状等の**全体像**を示す。
3. **問題点** うち何が**問題**か、明確に提示する。
4. **原因** なぜそのような問題が生じた/生じているのか、主要な**原因**を抉り出す。
5. **従来の方策** 以上に対し、これまでどのような研究・議論・政策・対策等がなされてきたか、**整理**する。
6. **私の提案** それを踏まえ自分の主張、すなわち新たな提案を明快に打ち出す。
ここが勝負処。最大のエネルギーを投入すること（当然、複数頁になる）。

VI. 留意点

1. 自分で Story を作る。すなわち自分の言葉で、首尾一貫したものをまとめる。
写してはいけない。「調べました、終わり」は Out !
2. 図・表・写真等をふんだんに入れる。文章は自分で短く編集する。
3. 各行冒頭の**黒ボツ「・」は必ず消す。すべて番号で階層的に指示表示すること。**
4. 読みでつかえないよう、また時間内で収まるよう、
必要に応じ事前にリハーサルをしておくこと。

VII. PP のアップ方法

1. 第 13 回なら、**12/15（日）夜までに、科目の「ファイル」欄に up。**
科目の「一般」→「ファイル」→「アップロード」→「ファイル」→自分で発表する PP を探し、「開く」。
2. PP は、その後も発表時まで、どんどん自主的に改定してよい。
最終完成版を発表当日夜までに再度 up すること（差し替える）。

VIII. 当日の進行

1. 順次、PP 発表を行う。
2. 先生が、司会進行・時間管理をする。
3. 各人の**発表は 8 分程度**。6～11 分間 OK。
4. 順番が来たら、速やかに準備すること。先生の合図を受け、発表スタート。
 - 1) 当日は、**全員、マイク、カメラを on にしておく。**
 - 2) **PC 等で、予め、自分の当日の発表用 PP を開いておく。**
 - 3) 右上の「共有」→「ウィンドウ」→自分が発表する PP をクリック
→赤枠があることを確認する→（画面・音声 OK を確認の上で）スタート。
5. 発表が終わったら質疑応答。**全員が質問する**。即質即答を心がけること。

IX. コメント・採点

1. 受講生 各人に対し、良かった点を2つ、改善すべき点を1つ、書く。
自分に対しては、うまくいった点2つ、反省点を1つ、書く。(読替)
1人終わった都度、メモしておくこと。
2. 着眼点 ①PPの内容、②PPの形式、③発表のうまさ(所要時間も含む)、
④応答のうまさ
3. 提出 コメント紙に記入し、翌日(火曜)夜までに、Teams上で返信。
4. 先生 15~20点で採点する。

X. 備考

わからないこと、困ったこと等があれば、速やかに先生に相談して下さい。

(終)

[24 経経 期末 Report 課題 等]

以下の【Ⅰ. 設問等】と【Ⅱ. 条件】をよく読み、答えなさい。

【Ⅰ. 設問等】(100 点=30×3+10)

以下の(3+1)問にすべて答えて下さい。

1. 半導体業界について、下記の要領で、調考しなさい。(30 点)

- 1) 現状
- 2) 課題
- 3) 出典

2. 山梨を除く任意の1県(以下に条件あり)について「経済・産業・企業」を具体的に調考しなさい。(30 点)

必須記載項目：県内総生産額・産業特性・代表的企業(売上高等で見るとよい)。

禁止項目：景気動向を扱ってはいけない。

条件：女～西日本、男～東日本。

：新潟・長野・静岡以東を東日本とし、富山・岐阜・愛知以西を西日本とする。

- 1) 調
- 2) 考
- 3) 出典

3. あなたは山梨県内で、夫婦で、お店を開いて早3年たちます。

以下の順で、想像力豊かに&具体的に、描きなさい。(30 点)

- 1) どこに(市町村名、そこに開店した理由)、
 - 2) どんなお店を(業態、店名)、
 - 3) 日頃どのようなことに留意して、運営していますか？
- (大事な2点：お客様に喜んでいただく+収益をしっかりと出す)
-

☆. この授業を受講して、どうだったですか？(10 点)

- 1) 第1～12回(授業回：経済・経営)について伺います、どうだったですか？
- 2) 第13回(海外協力隊紹介回)について伺います、どうだったですか？
- 3) 第14、15回(AL回)について伺います、どうだったですか？
- 4) 授業(講義・AL)・課題・期末考査等、この科目全般、どうだったですか？

「もっとこうしてもらえるとよかった」等の意見も、あれば聞かせてね。

※) この☆印については、全部書いてあれば、一律に10点貰えます。

何を書いても点数・成績には影響しませんので、正直に/自由に、書いて下さい。

※) これとは別に、大学の授業評価アンケートも、記述返信して下さい。

【Ⅱ. 条件】

1. 書式

- 1) この問題用紙とは別に Word を立ち上げ、書く。
- 2) Word、A 4。[1、2、3、☆] の全合計で **2880 字を越えること**。
- 3) 数値は、記述時、**左下の文字数**を見ることが出来ること。余裕をもって越えること。

2. 記述方法

- 1) 1 行目真中～経経 期末 Report
- 2) 2 行目右端～番号・名前
- 3) 3 行目 ～問 1 と記し、ただちに解答文を書き始めること。
- 4) 1)、2)、3) 等は、改行して、書き出す。
- 5) 表紙は要らない。問題文を書き写す必要もない。
- 6) 1、2、3、☆、の間は、各 1 行空けること。

3. 注意

調べる部分等に関し、文書等をたくさん読み込むことになるかと思いますが、各設問につき出典は 1 つ明記し、あとは「など」で結構です。

例えば Website を用いた場合、題名と Site 名を記して下さい。

原則として、写してはいけません。自分の言葉で要領よくまとめて下さい。

設問 3 など、出典がない場合には、出典なし、と書く。

4. 提出

8/5 (月) 午後 5 時までに、Teams 上で返信して下さい。

5. 質問

- 1) Report 作成上でわからないこと、聞きたいことがあれば、Teams 上の個人チャット等で、先生に早目に問い合わせして下さい。
- 2) 原則として個別回答しますが、公平な扱い等のため全員に周知連絡する必要がある場合には、問い合わせた人の名を伏せ、随時、全員に向け、科目の「投稿」欄に記載します。期間中、投稿欄に留意して下さい。
ただし見落としても不利にはならないよう、計らいます。

6. **採点基準**

- 1) 内容 論旨が明瞭である、論拠がしっかりしている、体系的・論理的である、等。
- 2) 形式 文章になっている（主語述語対応、句読点、誤字脱字）、等。
- 3) 主題に関し、筋道が通っていれば、いかなる議論になっても OK です。

【Ⅲ. 成績評価】

1. 配点 **320 点**＝課題 (120) ＋GPP (50) ＋TD (50) ＋期 R (100)
2. 成績評価 これを適宜割り振る。

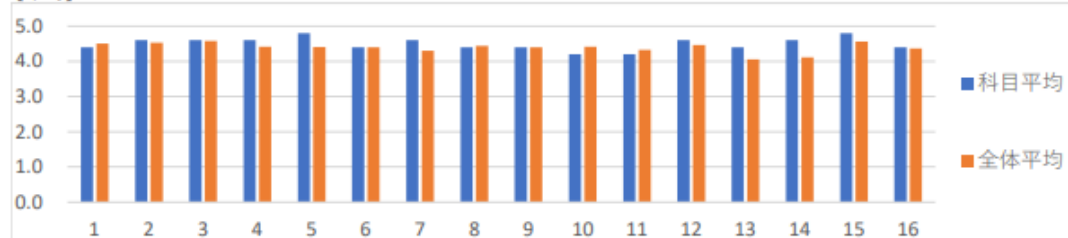
講義・演習系授業科目

実施年度	集計コード	担当教員氏名(代表)	科目名	履修者数	回答者数
2024_後期	113401	松崎 昇	経済と経営	6	5

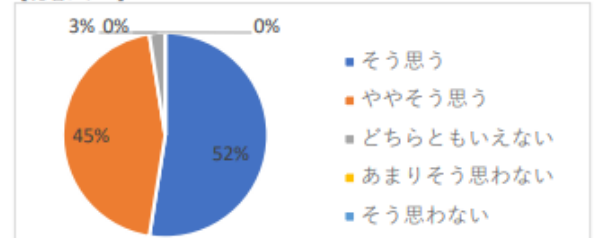
【集計結果】 5…そう思う 4…ややそう思う 3…どちらともいえない 2…あまりそう思わない 1…そう思わない

設問	回答数							科目平均	全体平均
	5	4	3	2	1	無効	有効		
1 この授業の目標、到達点が明確に示されていた	2	3	0	0	0	0	5	4.4	4.5
2 シラバスの内容に沿って授業が進行していた	3	2	0	0	0	0	5	4.6	4.5
3 教員は成績の評価方法をオリエンテーションや講義中に説明した	3	2	0	0	0	0	5	4.6	4.6
4 教科書の選定、参考書の紹介、資料の配布は適切であった	3	2	0	0	0	0	5	4.6	4.4
5 板書やスライドの提示方法、内容、速度は適切だった	4	1	0	0	0	0	5	4.8	4.4
6 予習・復習についての指導、課題・レポートの指示やフィードバックは適切だった	2	3	0	0	0	0	5	4.4	4.4
7 この授業は学生に興味を湧くよう工夫されていた	3	2	0	0	0	0	5	4.6	4.3
8 質疑応答の機会や場が設けられ、質問に対して返答が得られた	2	3	0	0	0	0	5	4.4	4.4
9 この授業の学習内容のレベルは適切だった	2	3	0	0	0	0	5	4.4	4.4
10 他の授業科目との関連性が示されていた	2	2	1	0	0	0	5	4.2	4.4
11 この授業は自分が期待していた授業内容だった	2	2	1	0	0	0	5	4.2	4.3
12 この授業は自分の将来に役立つと思った	3	2	0	0	0	0	5	4.6	4.5
13 授業を受講していく上でシラバスを活用した	2	3	0	0	0	0	5	4.4	4.1
14 予習、復習を含めた授業時間外にもこの授業に関連する知識の習得に努めた	3	2	0	0	0	0	5	4.6	4.1
15 与えられた課題やレポートに積極的に取り組み、提出期限を守った	4	1	0	0	0	0	5	4.8	4.6
16 この授業内容を全体的に理解することができ、興味や関心を持った	2	3	0	0	0	0	5	4.4	4.4
総合	42	36	2	0	0	0	80	4.5	4.4

【平均】



【総合グラフ】



【考察】